

安倍首相、改憲勢力で前進の構え＝立憲など置き去りも 【17衆院選】

衆院選で自民党が大勝したことを受け、安倍晋三首相(自民党総裁)は憲法改正に向けた環境整備に着手する。自民、公明両党の獲得議席は国会発議に必要な3分の2を超えたが、改憲に積極的な希望の党、日本維新の会を含む改憲勢力で論議を前進させる構え。安倍政権と対決姿勢を見せる立憲民主党などは置き去りになる可能性もある。

「合意形成の努力は、(野党の)第1党であろうと第2、第3、第4党であろうと行わなければならない。しかし、政治だから全ての理解をいただけるわけではない」。首相は23日の記者会見でこう強調した。

今回、野党の獲得議席は多い順に(1)立憲(2)希望(3)共産(4)維新だった。一方、与党と希望、維新の改憲勢力は全議席の8割超を占めた。首相が会見でわざわざ第4党まで言及したのは、幅広い合意形成に努める姿勢を見せつつ、場合によっては与党と希望、維新で改憲を前に進める狙いがあるとみられる。

首相は自民党内での論議を進め、年内にも衆参両院の憲法審査会に党の独自案を提案。国会での議論の進み具合によっては来年の通常国会で発議に持っていくことも想定する。自民党は来週にも党憲法改正推進本部の幹部が集まり、今後の進め方を協議する。

同党は衆院選公約に、9条に自衛隊を明記する改正などを盛り込んだ。メンバーの1人は「党としての成案を得た上で他党と多くの一致点を見いだしていく」と語り、改憲項目の絞り込み作業を加速させる考えだ。

早速、呼応する動きも出ている。希望の樽床伸二代表代行は23日、改憲について「われわれは全てについて反対だけする立場ではない。一致するところは一致する」と柔軟姿勢を見せた。

一方、立憲の枝野幸男代表はテレビ東京の番組で「国会で(議席を)いくつ持っていようと、改憲を発議しても(国民投票で)否決されたら憲法論議がタブーになる」と述べ、改憲に前のめりになる首相をけん制した。

公明党内では拙速な議論に懸念も漂う。23日の連立政権合意では改憲について、2014年衆院選後の合意にはなかった「合意形成に努める」との文言が追加された。

自民党幹部は「表現を強めた」と解説するが、公明党幹部は「踏み込んだとは思っていない。自民党はもっと強く書きたかった」と指摘。自公両党の改憲に対する温度差もにじむ。(時事通信 2017/10/23-20:28)

改憲、希・維の協力期待＝森友・加計「丁寧に答える」－ 安倍首相【17衆院選】



衆院選から一夜明け、記者会見する安倍晋三首相＝23日午後、東京・永田町の自民党本部

安倍晋三首相(自民党総裁)は23日午後、衆院選での大勝を受け党本部で記者会見した。憲法改正について、9条への自衛隊明記を含む自民党案の提出に向け、党内議論を加速させる意向を改めて表明。その上で、「与党、野党にかかわらず、幅広い合意を形成するよう努力を重ねていく」と述べ、公明党に加え、野党で改憲に前向きな希望の党や日本維新の会の協力を期待を示した。

首相は衆院選の街頭演説では改憲にはほとんど言及しなかったが、「初めて公約の柱に位置付け、われわれがどう考えているか示した。(公約を)街頭でもお配りしている」と説明。自衛隊明記や教育無償化、参院合区解消、緊急事態対応の改憲4項目について、選挙で審判を仰いだとの認識を示した。

首相は同時に、「民意を得なければならないのは国民投票だ」と指摘し、憲法審査会などで議論を尽くす意向を表明。自身が5月に掲げた「2020年に新憲法施行」の目標に関しても、「スケジュールありきではない」と語った。

一方、学校法人「森友学園」「加計学園」をめぐる問題について、首相は「これからも国会で質問をいただければ丁寧に答えていきたい」と明言。各種世論調査で内閣支持率が不支持率を下回っている現状を踏まえ、「私や自民党に厳しい目が向けられている中、今まで以上に謙虚で真摯(しんし)な政権運営に努めなければならない」と述べた。

第4次安倍内閣は来月1日、特別国会での首相指名選挙を経て発足する。首相は23日、公明党の山口那津男代表と国会内で会談し、連立政権継続を確認。全世代型社会保障の構築を目指すことなどを盛り込んだ政権合意書に署名した。

これに関し、首相は「力強い支持を背に、国民とともにぶれることなく真つすぐに政治を前に進め、結果を出す覚悟だ」と強調。閣僚や党役員の人事については「選挙が終わったばかりだ。これからよく考えたい」と述べるにとどめた。(時事通信 2017/10/23-18:01)

首相、改憲へ「幅広く合意形成」 衆院選大勝受け会見 共同通信 2017/10/23 19:04



衆院選での与党大勝を受け記者会見する安倍首相＝23 日午後、東京・永田町の自民党本部

安倍晋三首相は 23 日、衆院選での自民党大勝を受け党本部で記者会見し、公約で掲げた憲法改正について「与野党にかかわらず、幅広い合意形成をするよう努力を重ねていかなければならない」と述べ、実現への意欲を表明した。安倍政権下の 9 条改正に反対する野党第 1 党の立憲民主党との合意にこだわらない姿勢にもじませた。11 月の国際会議に合わせ、中国の習近平国家主席と首脳会談を行い、北朝鮮対応を巡り協議する意向を示した。

首相は改憲に関し、党として自衛隊の存在を明記する 9 条改正を含めて議論を進め、具体的な条文案をまとめた上で衆参両院の憲法審査会に提示する考えを明言した。

安倍首相 衆院選受け会見「安定した政治基盤で着実に」

NHK10 月 23 日 15 時 52 分

安倍総理大臣は、今回の衆議院選挙を受けて自民党本部で記者会見し、安定した政治基盤で、着実に成果を挙げていきたいとしたうえで、今後も謙虚に政権運営を進めていく考えを強調しました。一方、憲法改正について、党としての具体的な条文の案を示したいとしたうえで、野党も含め幅広い合意を得るために努力していく考えを強調しました。この中で、安倍総理大臣は、今回の衆議院選挙について「目標を大きく上回る支持を得ることができ、『安定した政治基盤で、これから政治を前に進めよ』と力強く背中を押してもらえた」と述べました。

そして、公明党の山口代表と改めて政権合意を結んだことを踏まえ、「強固な連立政権の下で、経済政策や外交・安全保障政策を進めていく。選挙で訴えた政策を 1 つ 1 つ実行し、結果を出していく」と強調しました。

一方、安倍総理大臣は、憲法改正について、「スケジュールありきではなく、今後、公約に掲げた 4 つの項目について、党内で具体的な条文の検討、議論を深め、党としての案を国会の憲法審査会に提案したい」と述べました。そのうえで、「与党で 3 分の 2 の議席をいただいたが、与党だけでなく、野党とも幅広い合意を形成することが必要であり、国民投票で過半数の賛成を得るべく、国民的な理解を得るよう努力していきたい」と述べ、野党も含め幅広い合意を得るために努力していく考えを強調しました。

また、安倍総理大臣は、森友学園や加計学園をめぐる問題などで、内閣支持率が一時下落したことも踏まえ、「国民からより一層厳しいまなざしが注がれることを、すべての与党議員が強く意識しなければならない。今まで以上に謙虚な姿勢で、真摯（しんし）な政権運営に全力を尽くさなければならない」と述べました。

さらに安倍総理大臣は、第 4 次安倍内閣の閣僚人事と自民党の役員人事について、「まだ選挙が終わったばかりであり、これからよく考えたい」と述べるにとどめました。

首相、改憲「自衛隊明記で議論」 立民がブレーキ役に

東京新聞 2017 年 10 月 23 日 朝刊

安倍晋三首相は二十二日夜のNHKや民放番組で、自衛隊を明記する改憲について「そういう観点から議論を進めたい。（自衛隊の）違憲論争に終止符を打ちたい」と話し、衆院選で改憲勢力が三分の二以上の議席を維持したことを受け、改憲論議を加速させる意向を表明した。

首相は「与党だけで（改憲案を）発議することは考えていない。希望の党をはじめ、他の政党とも話し、できるだけ多くの賛成を得るべく努力したい」と、他の改憲勢力との連携に意欲を示した。

二〇二〇年の改憲施行という目標については「スケジュールありきではない」と説明したが、撤回はしなかった。年内に自民党改憲案をまとめ、両院の憲法審査会で議論し、来年の通常国会での改憲案発議という日程を視野に入れているとみられる。自民党の二階俊博幹事長はNHK番組で「ある程度時間をかけるが、あまり長くやるのもいかがかと思う」と話した。

一方、首相主導の改憲に反対する立憲民主党が議席を大きく伸ばしたことは、改憲論議に大きく影響しそうだ。枝野幸男代表は二十二日夜「（与党側が）国会で具体的に議論しようとするれば、いかにおかしいかという論陣を張って、世論を喚起していく」と、性急な改憲論議にブレーキをかける考えを示した。

公明党の山口那津男代表も「議論の深まりが重要。（今は）何をどう変えるか、各党ばらばらだ」と、拙速な議論に慎重な姿勢を表明。同党幹部は、立憲民主の躍進に関し「（改憲論議は）難しくなる」と話した。改憲勢力は、公明が賛成しないと参院で三分の二に届かない。（新開浩）

安倍首相「新たなスタートで結果を出していきたい」

NHK10 月 23 日 12 時 28 分

安倍総理大臣は 23 日午前 1 時すぎ、総理大臣官邸に入る際、記者団に対し、「ここからが新たなスタートだ。政策を実行し、結果を出していきたい」と述べました。

官房長官「結果謙虚に受け止め 1 つ 1 つやり遂げたい」



菅官房長官は午前の記者会見で、自民党が衆議院選挙で公明党と合わせて3分の2を上回る議席を獲得して圧勝したことについて、安定政権の継続に対する国民の支持が得られたとしたうえで、結果を謙虚に受け止め、選挙戦で訴えた政策を1つ1つ実現する考えを強調しました。

この中で、菅官房長官は、自民党が、22日投票が行われた衆議院選挙で、公明党と合わせて全議席の3分の2を上回る議席を獲得して圧勝したことについて、「安定政権の継続を訴えて選挙戦を戦って評価され、大きな支持をいただいたのだと思う。自民・公明の連立政権にしっかり仕事をしてほしいという国民の大きな思いなのではないか」と述べました。

そのうえで、菅官房長官は「多くの国民の理解と信頼を得たことを謙虚に受け止め、国民からいただいた負託に応え、選挙戦を通じて国民から寄せられたさまざまな声に向き合い、政権として訴えたことを1つ1つきちんとやり遂げていきたい」と述べました。

また、菅官房長官は、今後の憲法改正論議について、「自民党は、今回も憲法改正を公約にも掲げた。ただ国会の憲法審査会で議論が行われており、とにかく静かな議論を国会ですることが大事だ」と述べました。

一方、菅官房長官は、今回の選挙で、期日前投票所が混雑する例が相次いだことについて、「しっかり検証して、円滑な本人確認のしかたをはじめ、十分な投票スペースの確保など適切な対策を講じてもらうとともに、政府としても全面的に協力したい」と述べました。

共産 志位委員長 憲法9条改正阻止へ3野党連携確認を 10月23日 20時18分



共産党の志位委員長は、記者会見で、安倍政権のもとでの憲法9条改正を阻止するため、共産党、立憲民主党、社民党の3党の幹部で近く会談し、国会で連携して対応していくことを確認したいという考えを示しました。

この中で志位委員長は、今回の衆議院選挙で自民・公明両党と憲法改正に前向きな希望の党、日本維新の会の獲得議席が、全体の8割を占めたことについて、「今回の選挙結果

で憲法改正が信任されたとは到底言えない。共産党は、立憲民主党、社民党と、安倍政権のもとでの憲法9条改悪に反対することで合意しているので、国会での共闘を確認したい」と述べ、3党の幹部で近く会談し、国会で連携して対応していくことを確認したいという考えを示しました。また志位氏は、特別国会での総理大臣指名選挙への対応について、「立憲民主党と社民党とともに選挙を戦ったので、1人に絞って投票するのが望ましい。話し合いは必要だが、立憲民主党の枝野代表に投票する可能性はある」と述べました。

一方、志位氏は、民進党の前原代表について、「希望の党という、自民党の別動隊に手を貸した点で、大変な背信を歴史に刻んだ。政治的な節を曲げ、捨てる行動は、いちばんやってはならない、政治不信をあおる行動だ」と批判しました。

社民 吉田党首「立民軸に共産とも連携」 NHK10月23日 18時58分



社民党の吉田党首は国会内で記者会見し、今後の国会対応について、野党第1党となった立憲民主党を軸に、共産党とも連携しながら、安倍政権に対峙していきたいという考えを強調しました。

この中で、社民党の吉田党首は22日に投票が行われた衆議院選挙について、「社民党としては大変厳しい結果になった。今回の戦いを総括しながら、今後、国民に信頼され、選択に値する政党として、しっかり再建し、再生させたい。

『社民リベラル勢力』の結集に向けて、何ができるのか議論していきたい」と述べました。

そのうえで、吉田氏は「立憲民主党が野党第1党になったことは、今後の国会運営や憲法審査会での議論で、野党代表として議論を進めてもらううえでよかった。立憲民主党を軸に、共産党とも協力しながら、安倍政治に対する国民の疑念を払拭（ふっしょく）するため、ひるまず国会で追及していきたい」と述べました。

立民 きょう両院議員総会 野党連携動き活発化か NHK10月24日 4時03分

今回の衆議院選挙で野党第1党となった立憲民主党は24日、両院議員総会を開き、無所属で当選した民進党出身者との連携も含めて、今後の対応を協議することにしており、今後、野党間の連携に向けた動きが活発化することも予想

されます。

今回の衆議院選挙で民進党の出身者は、立憲民主党、希望の党、無所属から立候補し、対応が3つに分かれました。このうち立憲民主党は55議席を獲得して野党第1党に躍進する一方、100人を超える民進党出身者を擁立した希望の党は50議席にとどまりました。

ただ自民・公明両党は、衆議院全体の3分の2を上回る313議席を獲得していて、野党各党にとっては国会で巨大与党と対する態勢をどう構築していくのが当面の課題になっています。

こうした中、立憲民主党は24日、両院議員総会を開き、無所属で当選した民進党出身者や民進党の参議院議員との連携のあり方などを協議することにしています。

一方、無所属で当選した民進党出身者の中には、当面、無所属で国会の会派を結成し、立憲民主党や希望の党との連携を模索すべきだという意見も出ています。

さらに民進党の参議院側も24日、議員総会を開いて対応を話し合うことにしていて、今後、野党間の連携に向けた動きが活発化することも予想されます。

連合会長 立民や希望との関係は政権への対応見極め

NHK10月23日 18時30分

連合の神津会長は記者会見で、今後の立憲民主党や希望の党との関係について、国会審議などで安倍政権にどう対していくのか見極めたうえで、具体的な連携の在り方を検討する考えを示しました。

連合は支持政党の民進党が分裂したことを受けて、今回の衆議院選挙では特定の政党の支援を見送り、連合の掲げる政策と考え方が一致する候補者を個別に支援しました。

連合の神津会長は23日の記者会見で、自民党が圧勝した衆議院選挙の結果について、「『一強政治』のおごりにストップをかけるため、与党と野党が小選挙区で1対1で争う図式を作ることができず、与党を利する結果となって非常に残念だ」と述べました。

そのうえで、神津会長は今後の立憲民主党や希望の党との関係について、「連合が支援した国会議員を通じて、それぞれの党の政策のありようなどが見えてくるので、どのような連携が取れるのか見極めたい」と述べ、国会審議などで安倍政権にどう対していくのか見極めたうえで、具体的な連携の在り方を検討する考えを示しました。

一方、神津会長は「巨大与党に対していくには、バラバラの対応をして相手を利することがあってはいけませんが、選挙の直後に元のさやに収まるのは不見識だし、ありえない」と述べ、立憲民主党や希望の党の民進党出身者が民進党に復党する形の野党再編に否定的な考えを示しました。

立民 枝野代表が連合会長と会談「対抗軸構築に向け連携」

NHK10月23日 12時49分

立憲民主党の枝野代表は連合の神津会長と会談し、衆議院選挙の結果、野党第一党になることが確実になったことなどを報告したうえで、安倍政権への対抗軸の構築に向けて連携していくことで一致しました。

衆議院選挙の投票日から一夜明けて、立憲民主党の枝野代表は23日午前、連合本部を訪れ、連合の神津会長と会談しました。

この中で、枝野氏は、選挙前の3倍を超える54議席を獲得し、野党第一党になることが確実になったことなどを報告しました。

これに対し、神津氏は「国民の声を受け止めて、よい結果を出してくれた」と述べました。そして、両氏は、安倍政権への対抗軸の構築に向けて連携していくことで一致しました。

民進 前原代表 連合会長に代表辞任の考え示す

民進党の前原代表は連合の神津会長と会談し、事実上の合流を決めた希望の党の獲得議席が衆議院選挙前の議席数を下回ったことを謝罪したうえで、民進党の在り方に一定の方向性を出したあと、代表を辞任する考えを示しました。衆議院選挙の投票日から一夜明けて、民進党の前原代表は23日午前、党の最大の支持団体である連合の神津会長と会談しました。

この中で、前原氏は、事実上の合流を決めた希望の党の獲得議席が選挙前の57議席を下回ったことを報告し、謝罪しました。

そのうえで、前原氏は、みずからの進退について、「民進党の在り方に一定の方向性を出したあと、出处進退について考える」として、民進党の在り方に一定の方向性を出したあと、代表を辞任する考えを示しました。

会談のあと前原氏は記者団に対し、「自公政権に対処するためには、再来年の統一地方選挙や参議院選挙が重要であり、逆転するために、今、何を考えるべきかという点で、おおむね考え方は共有できた」と述べました。

経団連会長「痛み伴う改革を」

NHK10月23日 17時20分



経団連の榊原会長は23日の記者会見で、衆議院選挙の結果について、安定的な政権基盤が維持されたとして、歓迎する意向を示すとともに、今後、財政再建に向けた消費税率の引き上げや社会保障制度の改革などを求める考えを示しました。

この中で榊原会長は衆議院選挙の結果について「安定的な政権基盤が維持、強化されたということは、政策の継続や着実な実行に資するものだ」と述べ、歓迎する意向を示しました。そのうえで、榊原会長は「国民の痛みを伴う思い切った改革は、安定的な政権基盤がないとできない。消費税は増税しないと財政を再建できないので、勇気を持ってやって頂きたい」と述べ、消費税率の引き上げや社会保障制度の改革などを求めました。

また、憲法改正に向けた議論について、榊原会長は「改憲論議も重要だが、経済界としては、経済最優先の政策運営を基本姿勢としてやっていただきたい」と述べました。

辺野古反対「流れは維持」＝衆院選受け翁長沖縄県知事【17衆院選】

沖縄県の翁長雄志知事は23日、米軍普天間飛行場（宜野湾市）の名護市辺野古移設が争点となった衆院選県内4選挙区の結果について「勝敗で言えば3対1ということで、私どもの思いが県民に届いた。おおむね流れは維持できている」と評価した。県庁で記者団の質問に答えた。

翁長氏は前回衆院選と同様、4選挙区全てで辺野古移設反対派の勝利を目指していたが、4区では反対派の無所属前職が自民前職に敗れた。これに関し、翁長氏は「辺野古基地の建設反対についてはしっかり方向性が出せる」と強調した。（時事通信 2017/10/23-19:53）

「県民と共闘」意欲 赤嶺政賢さん、激戦沖縄1区制す 沖縄タイムス 2017年10月23日 07:34

「県民は不屈。そんな県民に支えられて、国会に行ける私は幸せだ」。赤嶺政賢さん（69）は日焼けした顔をほころばせ、勝利の喜びをかみしめた。沖縄1区で最初に当確が報じられても「もう1社出るまで」と待ち続けて約1時間20分後の午後11時ごろ。ようやく別のテレビ局も当確を出すと、那覇市おもろまちの事務所は歓声と指笛で沸き、万歳三唱の嵐となった。



激戦の1区で当確を決め、支持者とカチャーシーを踊る赤嶺政賢さん＝22日午後11時すぎ、那覇市おもろまちの選挙事務所

選挙区では歴史的な2連勝となる。2014年の前回衆

院選は、沖縄4選挙区で翁長雄志知事を支える「オール沖縄」旋風が吹き荒れ、赤嶺さん自身も初勝利。共産党としても全国で唯一かつ18年ぶりの選挙区議席をもぎ取った。

前回同様、事実上の三つどもえとなったが「手応えがある日もない日もあり、一喜一憂の選挙戦だった」と振り返る。だが、ふたを開けてみれば「辺野古新基地に反対する民意は予想以上だった」と比例代表を含め7期目の当選を確実に。沖縄が国政参加した1970年以降、党の大先輩である故瀬長亀次郎さん、古堅実吉さんにつないできた「宝の議席」を守り抜いた。

陣営のシンボルカラーで、赤嶺さんとおそろいの若草色のジャケットを着けた妻多美子さん（70）は「辺野古に座り込む皆さんの思いに応えるという重い責任を果たせたと感無量の様子。支援者に囲まれた赤嶺さんは「市民と野党の共闘で新しい政治をつくり、辺野古の基地を止め、東村高江のヘリパッドを撤去させるまで頑張る」と力を込めて宣言した。

「平和に建設的役割を」＝安倍政権に注文－中国【17衆院選】

【北京時事】中国外務省の耿爽・副報道局長は23日、衆院選結果を受け安倍政権に対し、「日本が平和的発展の道を継続して歩み、地域の平和と安定のために建設的な役割を發揮するよう希望する」と改めて注文を付けた。さらに「中国は中日関係の発展を重視している。日本が両国関係の安定・改善を促進するよう望む」と述べた。

共産党機関紙・人民日報系の環球時報も同日付の社説で「首相の新任期中に、中日関係の実質的な改善に尽力できるか」が重要だと指摘した。

社説は安倍政権の「大勝」の原因を、「北朝鮮のミサイル発射の機会を捉え、社会の危機感を高めることに成功し、支持率を回復させた」と分析。日中関係について「近年、両国は互いに消耗する情勢を形成しており、このような消耗を終わらせることは両国の利益にかなう」と強調した。

（時事通信 2017/10/23-18:08）

米大統領が首相に祝意 北朝鮮圧力へ緊密連携 共同通信 2017/10/23 13:27

安倍晋三首相は23日、トランプ米大統領と約30分間にわたり電話会談した。衆院選で自民党が勝利し首相が政権を引き続き担う見通しとなったことを踏まえ、トランプ氏が祝意を伝達。核実験強行や弾道ミサイル発射を繰り返す北朝鮮への対応を巡り、日米、日米韓で引き続き緊密に連携し北朝鮮への圧力を高めていく方針を確認した。

電話会談は米側の申し入れで実現した。

11月5～7日の日程で予定されるトランプ氏の来日についても意見を交わし、両首脳は5日午後に男子ゴルフの松山英樹プロを交えてゴルフをすることを申し合わせた。

日米、ミサイル防衛で協力加速 北朝鮮対応巡り防衛相会談

共同通信 2017/10/23 22:47



会談を終え米国のマティス国防長官（左）と握手する小野寺防衛相＝23日、フィリピン・クラーク経済特区（共同）

【クラーク共同】小野寺五典防衛相は23日、米国のマティス国防長官とフィリピンで会談した。北朝鮮をにらんだ弾道ミサイル防衛（BMD）強化へ日米防衛当局間の協力を加速する考えで一致した。韓国を交えた3カ国会談も開かれ、緊密連携を確認。小野寺氏は「脅威はこれまでになく重大で差し迫ったものになっている。われわれもこれまでと異なるレベルの対応を迫られている」と強調した。

圧力強化による北朝鮮の核放棄を目指してきた安倍晋三首相は衆院選結果を踏まえ、一層厳しい態度で北朝鮮に臨む方針。小野寺氏はこうした日本の立場を米側に伝え、理解と協力を求めたとみられる。

日米韓 防衛面で北朝鮮への圧力継続へ

NHK10月24日 6時40分



日本、アメリカ、韓国の3か国の防衛担当の閣僚が23日夜、フィリピンで会談し、核・ミサイル開発を加速させる北朝鮮は世界の重大な脅威だとして、共同訓練の実施など防衛面の協力によって、北朝鮮に圧力をかけ続けていくことを確認しました。

ASEAN＝東南アジア諸国連合の拡大国防相会議に出席するため、フィリピンのクラーク経済特区を訪れている小野寺防衛大臣、アメリカのマティス国防長官、それに韓国のソン・ヨンム（宋永武）国防相は23日夜、会談しました。

この中で、小野寺大臣は「これまでになく頻度で繰り返さ

れる弾道ミサイルの発射や核実験を通じて、北朝鮮の核・ミサイル能力は確実に向上しており、われわれもこれまでと異なるレベルの対応を迫られている」と述べ、日米韓3か国の防衛協力をさらに強化するよう求めました。

そして北朝鮮は、日米韓3か国のみならず、世界のそのほかの地域にとっても、これまでになく重大な脅威になっているという認識を共有し、外交努力を支援するためにも共同訓練の実施など、防衛面の協力によって圧力をかけ続けていくことを確認しました。

会談のあと、小野寺大臣は記者団に対し、「共同訓練を今後どのような形で行っていくかについては、それぞれの防衛当局間で調整していくことになる」と述べました。

衆院選から一夜 ネットの反応は

NHK10月23日 18時28分

衆議院選挙から一夜明けて、ネット上では、さまざまな反応が見られました。

自民党が圧勝した選挙結果については、「自民圧勝じゃん...ほんと無駄な選挙だった感じが」。「結局、野党の茶番によって与党が躍進」。「消去法で自民党へ投票した話を聞いた。どこにも任せられないから自民党へ投票したと」などという書き込みがありました。

立憲民主党が選挙前の3倍を超える議席を獲得し、躍進したことについて、「新党を立ち上げて党名を発表した時、『立憲民主党www』って小バカにしてたけど、実際は一番まともな野党だった」や「枝野氏には頑張ってもらいたい」といった投稿がありました。

一方、伸び悩んだ希望の党については、「あれだけ惨敗するっていうのは、ちょっとびっくり。有権者も付け焼き刃ってことはよくわかっていたってことか」などというつぶやきがありました。

選挙期間中もツイッター上で頻繁につぶやいていた舛添要一前東京都知事は「選挙結果は前原・小池両代表がもたらしたものである。勝つためには仲間を増やすべきなのに、排除してしまった。政策の一貫性もない」などと与党圧勝の要因を分析していました。

また、投票率が53.68%と、戦後2番目に低かったことについて、ジャーナリストの津田大介さんが「こんな状況でも投票率が低いというのが本当の『国難』なのだろうな」とツイートするなど、投票率の低さを嘆くものが目立ちました。

その要因を台風の接近と関連づけ「関心はそれなりにあったと思うんだけど台風がねえ。投票行動自体が億劫な人は期日前にも行かないからこうなるな」や「台風が来なくて、投票率が上がっていたらどうなんでしょう」、「一票より傘の方が重かったんだな」といった書き込みやつぶやきが多く見られました。

一方で「投票しなかった方々は投票した有権者に『委任な

された』のだ。よって投票率は常に100%であり、この結果は国民の総意なのである」といった書き込みも見られました。